



地域ケア会議

令和4年度 地域づくり加速化事業（全国研修）

CONTENTS

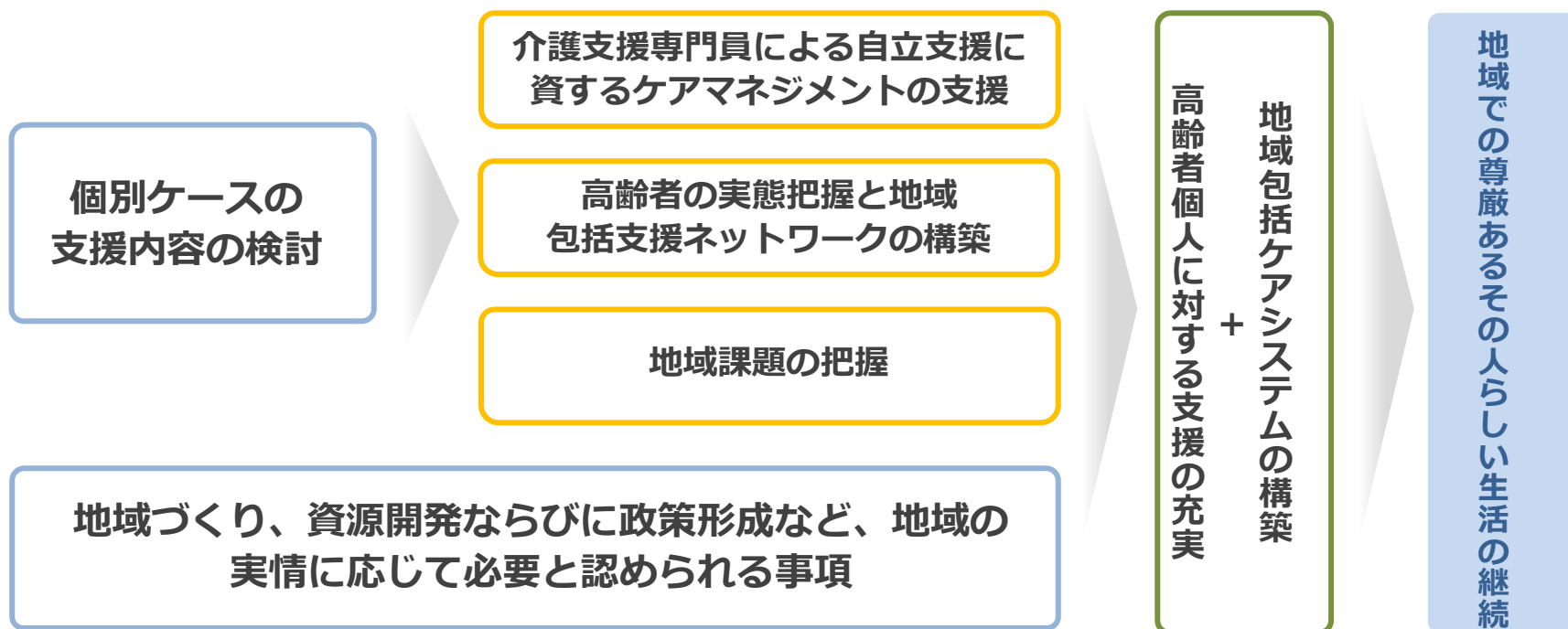


目次

- 1 地域ケア会議の概要・意義
- 2 実施に向けて持つべき視点
- 3 目指すべき効果・成果
- 4 具体的に行うことの例
- 5 振り返り・まとめ

地域ケア会議とは

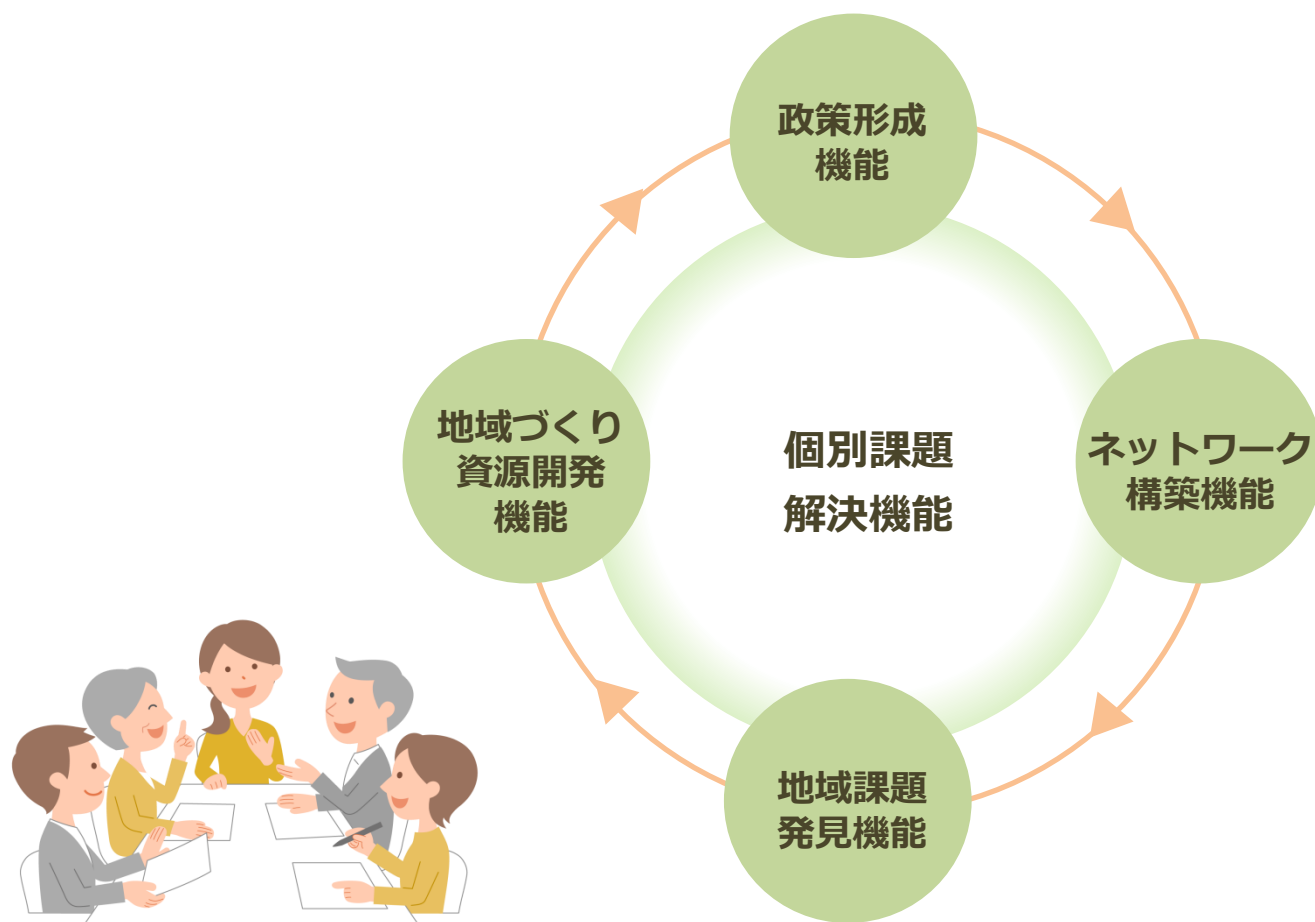
地域ケア会議の目的

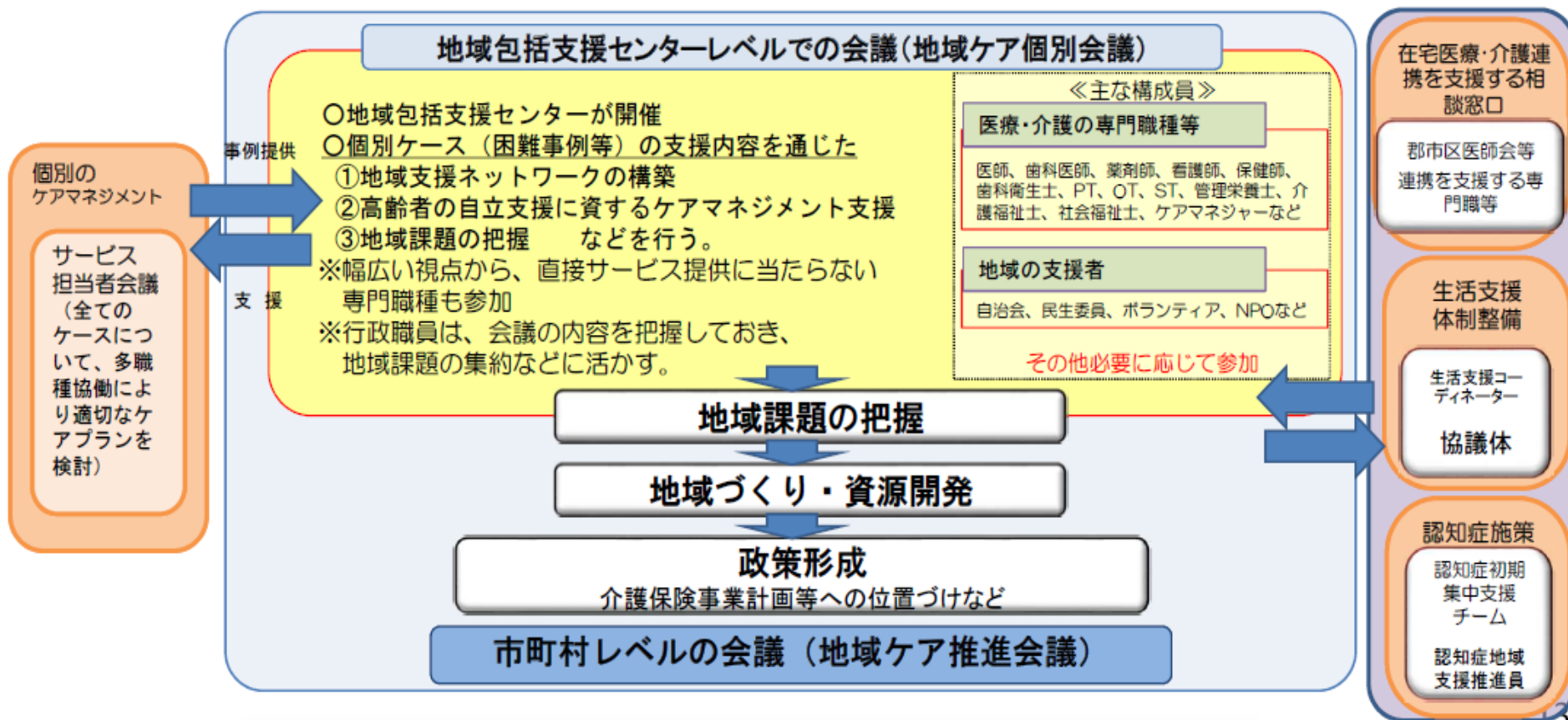


【出典】「地域包括支援センター職員基礎研修」（長寿社会開発センター）

地域ケア会議とは

地域ケア会議の持つ機能





- 地域包括支援センター等において、多職種協働による個別事例の検討等を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握等を推進する。

（参考）平成27年度より、地域ケア会議を介護保険法に規定。（法第115条の48）

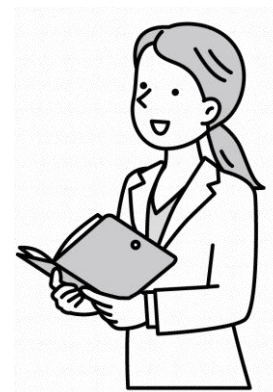
- 市町村が地域ケア会議を行うよう努めなければならない旨を規定
- 地域ケア会議を、適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うものとして規定
- 地域ケア会議に参加する関係者の協力や守秘義務に係る規定 など

地域ケア会議は、地域包括ケアシステム構築のためのツール①

- 1 わがまちの地域包括ケアシステムのビジョン（あるべき姿）を確認する
- 2 ビジョンに近づくために地域ケア会議をわがまちのデザインにする

ポイント

- 市町村職員だけでなく、地域包括支援センターや地域ケア会議構成員とも一緒に行う。
- 皆が同じレベルでビジョンと地域ケア会議の目的・意義・機能を理解し、わがまちでの地域ケア会議の活用や運用方法を考える。
- 運営していく中で、機能が重なっている会議体との統合や、既存の会議体を活用し、再構築する視点もあわせ持つ。



地域ケア会議は、地域包括ケアシステム構築のためのツール②

- 3** 地域ケア会議の開催目的を達成する
会議となるよう運営する

ポイント

- 会議の目的や意義を参加者に明示する
- 皆が発言しやすい場となるようグラドルールを伝え、共有する
- 資料はできるだけ個人情報に留意し事前送付する等、会議運営が効果的・効率的に実施できるよう工夫する。
- 論点が明確になるよう事前に関係者で論点整理を行い、質問や助言を引き出しやすいファシリテートにつなげる。
- 目的に応じて当日の参加者を選定するなどの工夫を行う。

- 4** 定期的に振り返り地域ケア会議の
体系（デザイン）や運営の改善を図る

ポイント

- 個別事例のモニタリングや、把握された地域課題への対応状況の確認をとおして、効果的な会議となっているか、体系の構築時と同じく市町村、地域包括支援センター、地域ケア会議構成員等で意見交換する。

地域ケア会議は、地域包括ケアシステム構築のためのツール③

5 地域課題を類型化し可視化する

ポイント

- 個別事例の検討により積みあがった課題が、個人因子による特異的なものか、一定以上普遍的なもの（地域課題の種）か整理する。
- 市町村と地域包括支援センターが協働して地域課題を整理・仕分けする場を設ける。
- 仕分けを終えたら可視化をして、関係者と共有し、次につなげる

6 地域課題の解決に向けて行動する

ポイント

- 地域や担当部署だけで対応困難な課題は庁内連携を通じて解決を図る。
- 地域での見守りなど住民との協働が必要な課題は生活支援コーディネーター等を通じて協議体での議論へとつなげる。
- 市町村全体の「まちづくり」への発展の可能性を意識しておく。
- 地域課題への対応が、個別の高齢者の自分らしい地域生活の継続につながったかを振り返る。

個別の高齢者の課題解決
⇔
地域課題の解決

介護支援専門員、介護サービス
事業所等、高齢者を支える
支援者のスキルアップ

多職種・オブザーバー等の
スキルアップ

地域包括ケアの深化・推進

多職種の知恵を出し合い
活用できる資源を
みつける、つくりだす

庁内連携、協議体等との
連携による政策形成、
地域づくりの促進

- 適切なケアマネジメントの実施
- 適切な介護サービスの実施
- 医療・介護の連携強化
- 認知症施策の推進
- 生活支援体制整備の充実
- 介護予防日常生活支援総合事業の充実・発展等



- 地域共生社会の実現
- 高齢者の自分らしい地域生活の継続



地域ケア会議の再構築～振り返りと見直し

市、地域包括支援センター、地域ケア会議構成員による振り返りを行い、その意見に基づき目的の明確化、資料の事前送付、会議体系の見直し等について合意形成を図り、改善を行った。



庁内連携

地域ケア会議で高齢者の特技や経験を活かした活動の場づくりが課題となっていた。庁内連携会議で課題を共有したところ、産業振興担当課より、建具会社が廃材を活用し子育て施設に積木を贈る取組に、木材の角を丸く削る作業をする人を募集しているとの情報。認知症地域支援推進員が元木工職人の認知症当事者達とマッチングし、積木の加工を請け負うことになった。

地域ケア会議から把握されたニーズから政策形成

➔ 高齢者の自分らしい地域生活の継続

一人暮らしで調理をしたことがない男性や、減塩食等が必要な高齢者へ自立支援のため管理栄養士の訪問事業を創設。

連れ合いが亡くなり食欲が落ちて10kg痩せた86歳男性へ訪問指導と運動中心の短期集中型通所サービスを導入。

男性は、サービス終了後、毎週通いの場で体操をしたり、家でもラジオ体操や畑で野菜づくりを楽しみ、姉から習った料理をつくるなど子や孫に会うことを楽しみに日々健康づくりに取り組んでいる。



振り返り・まとめ

- 1 地域ケア会議の目的・意義と機能を理解する
- 2 関係者と共に、わがまちの地域包括ケアのビジョンをもとに地域ケア会議をデザイン。活用目的を明確化し共有する
- 3 個別事例の検討から地域課題を把握し明確化する（逆もある）
- 4 庁内連携、協議体等とも連動し課題解決を図る
- 5 個別の高齢者へのフィードバック～地域包括ケアの深化・推進